



の お が た し

# 直方市

豊かなまち  
四季の表情  
自然が織り成す

ふくちやま  
**福智山**

尺岳、雲取山、鷹取山などの山々が連なる福智山山系の最高峰であり、筑豊の名山として市民に親しまれている福智山。標高は約901メートル



サイクリングロード

新飯塚橋(飯塚市新立岩)から勘六橋(直方市溝堀)まで12.9kmのサイクリングロード。遠賀川の河川敷を通るコースは、広々とした風景と爽快感を満喫できると評判



Jungle Café 緑人族

胡蝶蘭・観葉植物専門店「洋ラン タカシマ」内にあるカフェ。緑に囲まれたジャングルのような温室やデッキでおいしい料理を食べながらくつろぐことができる



もち吉 もちだんご村

福智山山系の水にこだわり、直方の地でせんべいを作り続けるもち吉。広大な敷地は「もちだんご村」と呼ばれ、工場や店舗のほか、フラワーパークや水車などもある憩いの場



直方がんだびっくり市

遠方から多くの人が訪れる金・土・日だけのウイークエンドマーケット。肉・魚・野菜のほか、惣菜や日用品などが所狭しと並び、フードコートやイベントなども充実している



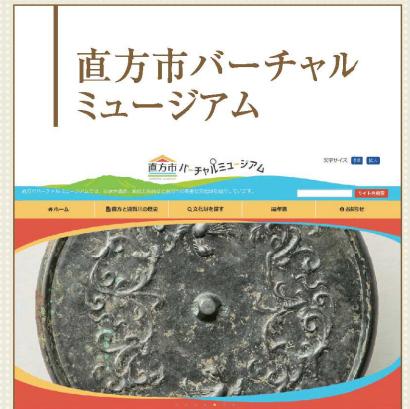
しん・Newグアーグー市場

新鮮野菜をはじめ、果物や花などが豊富にそろう直売所。新入地区はイチゴ農家が多く、冬から春にかけて、しん・Newグアーグー市場はイチゴの甘い香りに包まれる



直方市石炭記念館

もともと明治43年に筑豊石炭鉱業組合の会議所として建設された施設。現在は、筑豊炭田の歴史を後世に伝える記念館として、貴重な資料や蒸気機関車などを展示している



直方市バーチャルミュージアム

直方市に残る貴重な文化財をインターネット上に公開。通常は非公開の文化財も多数掲載しているほか、さまざまな角度から、さらには細部を拡大して…など、普通の博物館ではできないバーチャルならではの楽しみ方が可能。インターネットさえあれば、いつでもどこでも楽しめる魅力的な博物館です。



直方市バーチャル  
ミュージアムはこちらから▶

## 深い歴史と自然が 暮らしさに溶け込む

飯塚市・田川市と共に筑豊三都の一として知られる直方市は、江戸時代には福岡藩の支藩(東蓮寺藩・後の直方藩)が置かれた城下町として、明治時代以降は石炭産業の中心地として栄えた歴史あるまち。市内には福岡藩主・黒田家や炭鉱王・貝島太助の残した足跡が感じられ、レトロな町並みには日本の近代化を支えた歴史が今も息づいています。

また、自然がとても身近なことも魅力。季節ごとの表情を楽しめる福智山登山や、遠賀川沿いの心地よいサイクリングなど、市民はいつも自然を感じながら伸び伸びと暮らしています。

**ご当地キャラ紹介**

**直方焼きスパマン**  
趣味は焼きスパの作り方を教えること。  
口癖は「スーパーうまい!!」



問い合わせ  
**の**おがた

あなたのお!見つけに来ませんか?

直方市役所  
直方市殿町7-1  
0949-25-2000(代表)  
ファックス0949-24-3812  
http://www.city.nogata.fukuoka.jp

焼きスパ

かつて市内にあった喫茶店の名物メニューが、直方のB級グルメとして復活。公式認定を受けた市内の飲食店で提供中。店舗ごとの味を食べ比べるのも楽しい

成金饅頭

白あんがたっぷり詰まった皮にねじり梅の焼き印。100年以上の歴史がある直方の郷土銘菓。地元の菓子店がそれぞれの味わいで腕を競っている

のおがたチューリップフェア

遠賀川の河川敷に色とりどりのチューリップが咲き誇る様子は圧巻。毎年4月上旬に開催され、市内外から訪れる20万人以上の見物客が直方の春を満喫している

直方五日市

昭和34年から続く伝統のイベント。毎年5月、市の中心部にある4つの商店街で大売り出しが行われ、特売の出店がアーケードにずらりと並ぶ

直方日若踊り

福岡県指定無形民俗文化財。素朴な踊りの思案橋踊と優雅な舞の本手踊からなる。毎年8月13日に初盆の家の前で供養として踊られる

**pick up** ピックアップ

## こたかとり 古高取を伝える会

直方市の、そして福岡の宝を  
広く伝えていきたい

遠州七窯の一つとして名を高め、現在も県内各地に窯元がある高取焼は、1606年に福岡藩主・黒田長政が朝鮮陶工の八山に命じ、現在の直方市にある永満寺・宅間に窯を開かせたのが始まりといわれています。この高取焼の中で、直方にあった宅間窯や内ヶ磯窯、山田窯で焼かれたものを「古高取」と呼びます。茶陶（茶の湯に用いる陶器）として多くの名品を生み出した「古高取」の魅力を伝える活動をしているのが、平成20年に発足した「古高取を伝える会」です。

「いずれは、膨大な数の発掘出土品や高取焼に関する資料を展示し、直方市民をはじめ多くの人々に古高取の魅力を発信する資料館を」と語るのは、事務局長の末松登志子さん。約70人のメンバーと共に直方の素晴らしい宝を後世に伝える活動に励んでいます。



- 1/学習会を開いたり、窯元を見学したりするなど精力的な活動を行っている  
2/会では毎年市内の小学6年生を対象に高取焼の歴史を伝える焼物教室を開催している。新入小学校での子供焼物教室では焼き上がった自分のお茶わんでお茶会が行われる  
3/現在は福智山ダムの底に眠る内ヶ磯窯跡から発掘された舟形茶碗



- 1/メンバーは約80人。月に1度、県外からもメンバーが集まり、蒸気機関車の手入れをしている  
2/社会科見学では、実際に石炭を燃やしたり、蒸気機関車のブレーキに触るなど、普段ではできない体験ができる  
3/汽車俱楽部が運営する「九州レイルウェイショップ」には、迫力満点の鉄道模型が。かつて直方にあった「直方機関区」が復元されている

## NPO法人汽車俱楽部

石炭と鉄道のまちの財産を  
次世代へつなぐ

かつて石炭産業で栄えた直方にとって、石炭と関わりの深い蒸気機関車は、まちの歴史を語る大切な遺産。その蒸気機関車に、時代をつくってきた人と人との「絆」を、次の世代へと運んでもらう事をテーマに活動する「NPO法人汽車俱楽部」では、現在、蒸気機関車6両の修復や定期的な保守管理を行っています。

理事長の江口一紀さんは、平成11年に個人で蒸気機関車を取得し、修復を行ったことがきっかけで汽車俱楽部を立ち上げましたが、「自分は決して“鉄道マニア”ではない」と語ります。「個人で収集したものはいずれただのゴミになってしまう。そうではなく次世代へつなぎ、教育やまちづくりに貢献できたら」と江口さん。市内の小学校の社会科見学にも協力しています。

## たくみのたまご

高校生レストランで  
直方から未来の“たくみ”を

直方市の古町商店街には、月に1~2回だけ営業するレストラン「たくみのたまご」があります。運営するのは、大和青藍高等学校調理部の生徒たち。「現場での経験を通して、理想と現実のギャップを知り、仕事の本当の楽しさややりがいに気づくことができたら」と平成24年にオープンしました。

メンバーは1年生から3年生まで計31人。和食や洋食、それぞれのプロを目指す生徒たちが、材料の発注や仕込み、接客などレストラン運営の全てを自分たちで担っています。「レストランの運営はチームワークが大事。周囲の意見を大切にすることを学んだ」と部長の田中円さん。お客様の「おいしい、ありがとう」の声にやりがいを感じながら、「将来はレストランで働きたい」と夢に向かって仲間と切磋琢磨しています。



- 1/「たくみのたまご」を運営する調理部の生徒と顧問の先生たち。厳しい料理の世界へと進む彼らにとって、たくみのたまごの活動は貴重な修行の場にもなっている  
2/洋食と和食それぞれのセットやデザートを提供。現在の店舗は約30席だが、将来的にはもっと大きな店舗での運営を目指している  
3/「たくみのたまご」の名物、お持ち帰り用の『藍カレー』もおすすめです」と部長の田中さん

## NPO法人直方川づくりの会

“夢の遠賀川づくり”を通して  
まちづくりと人づくりを

穏やかに流れる遠賀川と美しい河川敷の風景は、自然豊かな直方市の象徴ともいえる存在。しかし、以前は石炭産業の影響で川は黒く濁り、地域の人々さえ近づくことはなかったといいます。

そうした中、「身近な川のことをみんなで考えたい」と平成8年に「直方川づくりの交流会(現在のNPO法人直方川づくりの会)」が発足。50年後の遠賀川をこんな姿にしたいという思いを描いた「遠賀川夢プラン」を作成し、河川敷の整備やオートキャンプ場の開設など、行政と協力しながらその夢を一つ一つ実現してきました。そして、平成16年にかなえた大きな夢が、川づくりの拠点として市民の学習の場になっている遠賀川水辺館の開館です。現在、水辺館では小さな子どもから大人まで、多くの市民がさまざまな活動を行っており、「世界子ども水フォーラム」に参加するなど活躍の場は広がっています。



- 1/遠賀川水辺館では、誰もが川やそこに住む生き物、環境について自由に学ぶことができる  
2/メンバーは22人。「ここで学び、環境に関する仕事に就いた子も。会のテーマである“川づくりは人づくり”が実現していることがうれしい」と代表の野見山ミチ子さん(左から2番目)  
3/年間約50校の小中学校が勉強に訪れるというビオトープ「春の小川」。ここでは、たくさんの川の生き物に出会うことができる